

## 2013 年度学会活動報告

### (1) 平成 25 (2013) 年度活動報告

#### (1) 平成 25 年度年次総会開催の件

平成 25 年 6 月 15 日 (土)、白鷗大学 (栃木県小山市) に於いて平成 25 年度年次総会を開催した。

総会出席会員数 60 名、委任状 95 名

(議決人員 155 名 / 会員総数 454 名)

#### 総会議題

議題 1. 平成 24 年度学会活動状況報告の件 (案)

議題 2. 平成 24 年度学会決算報告の件 (案)

議題 3. 監査報告の件

議題 4. 平成 25 年度学会活動計画審議の件 (案)

議題 5. 平成 25 年度学会予算審議の件 (案)

議題 6. 役員選任の件 (案)

上記が審議され、原案通り決定された。

#### (2) 理事会開催の件

学会の業務運営に関する重要事項を審議決定する為、理事会を下記のごとく開催した。

(平成 25 年)

第 134 回理事会            4 月 20 日 (土)    平成 25 年度年次総会開催準備の件、他

第 135 回理事会            6 月 15 日 (土)    新理事役割分担の件

第 136 回理事会            7 月 20 日 (土)    第 6 回経営倫理シンポジウムの件、他

第 137 回理事会            9 月 28 日 (土)    会則変更についての件、他

(平成 26 年)

第 138 回理事会            1 月 11 日 (土)    平成 25 年度決算見通しの件、他

#### (3) 研究発表大会開催の件

第 21 回研究発表大会を平成 25 年 6 月 15 日(土)-16 日 (日) 白鷗大学 (栃木県小山市) において開催した。前年度に引き続き

二日間にわたっての開催であった。統一論題『経営倫理とダイバーシティ・マネジメント』については当学会より依頼した有識者

による統一論題シンポジウムと 5 本の研究発表を行った。また自由論題 29 本の研究発表を 1 日目は 4 会場、2 日目は 5 会場に分けて行った。

#### (4) 研究交流例会等開催の件

学会員の研究情報の交流と学会活動の理解を深める交流例会を前年度に引き続き下記のごとく開催した。

なお研究交流例会は 2 本立てとし、若手研究者等からの研究報告があった。

\*第81回研究交流例会（平成25年7月20日）

1. 「社会起業家の創造するフローの意義」

拓殖大学教授 潜道文子氏

2. 「企業不祥事を防止し、経営者・従業員を成長させる社内情報共有の促進」

サイボウズ総合研究所マネジング・ディレクター 田邊 雄 氏

\*第82回研究交流例会（平成25年9月28日）

1. 「経営倫理とその実践」

立命館大学准教授 劉 慶紅 氏

2. 「リーバイ・ストラウスの経営戦略と経営倫理：

ビジネス成長を経営倫理、サステナビリティ観点から考える」

リーバイ・ストラウスジャパン株式会社代表取締役社長 齋藤 貴 氏

\*第83回研究交流例会（平成26年1月11日）

1. 「韓国における国内機関投資家の議決権行使の行動と政府の対応：

国民年金基金の株式所有比率の増大と議決権行使の強化について井の考察」

創価大学大学院博士後期課程 李 昭娟 氏

2. 「ソフトローとしてのCSR国際規格の有効性：エンフォースメントの類型をふまえて」

杏林大学教授 田中信弘 氏

（5）研究部会活動報告の件

各研究部会の登録メンバー、研究活動報告および今後の計画に関し別紙1にて報告。

部会長および登録メンバー数（平成26年3月末現在）。

1. 理念・哲学研究部会

部会長：宇佐神 正明 氏 登録メンバー数：21名

2. 企業行動研究部会

部会長：瀬名 敏夫 氏 登録メンバー数：61名

3. 監査・ガバナンス研究部会

部会長：今井 祐 氏 登録メンバー数：16名

4. 実証調査研究部会

部会長：福永 晶彦 氏 登録メンバー数：11名

5. CSR研究部会

部会長：水尾 順一 氏 登録メンバー数：65名

6. 経営倫理教育研究部会

部会長：梅津 光弘 氏 登録メンバー数：27名

（6）地方組織活動の件

関西および中部各地区研究部会の登録メンバー、研究活動報告および今後の計画に関し別紙1に

て報告。研究部会長、参加数および登録メンバー数（平成26年3月末現在）。

（I）関西地区研究部会 部会長：吉川 吉衛 氏 参加数：約25名

(Ⅱ) 中部地区研究部会 部会長：堀田 友三郎 氏 登録メンバー数：28名

(7) 学会報発行の件

学会の活動状況伝達のため、学会報No.61 第64号(平成25年7月25日発行)、No.62 第65号(平成25年12月10日発行)、No.63 第66号(平成26年2月25日発行)を夫々発行し会員各位に配布した。

(8) 学会誌発刊の件

白鷗大学で開催された第21回研究発表大会での発表を中心に、論文19本、研究ノート3本および論説1本からなる『日本経営倫理学会誌第21号』を平成26年2月に発刊した。

(9) 国際交流推進の件

平成24年度に引き続き、米国SBE年次大会への参加等国際交流活動を一層促進した。

\* 詳細は[研究部会●国際委員会]にて報告。

(10) 第6回経営倫理(創立20周年特別)シンポジウム開催の件

当学会主催の第6回経営倫理(創立20周年特別)シンポジウムを平成25年11月16日、慶應義塾大学三田キャンパス(東京・三田)において開催した。今回の統一テーマは「企業のグローバル社会責任と経営倫理」。当日は高橋浩夫会長(白鷗大学教授)による「日本経営倫理学会20周年と本シンポジウムの意義」と題したスピーチ後、シンポジウム実行委員長の梅津光弘副会長(慶應義塾大学准教授)による講演「経営倫理学の過去と現在」と高巖理事(麗澤大学教授)による講演「日本企業の経営倫理」が行われ、わが国における経営倫理研究の第一人者達による問題提議があった。その後、この分野で世界的に著名なProf. David Vogel (Hass Business School, University of California, Berkeley)を迎え通訳無しでの記念講演が行われ、引き続き約150名の参加者と活発な議論が行われた。シンポジウム終了後は講演者達にも参加いただき懇親パーティを開催。和やかな雰囲気の中、シンポジウムに引き続き交流、懇親を深めた。

\* 詳細は[アーカイヴ●シンポジウム]参照

(11) 年会費自動振替への移行の件

平成22年度より、会員の年会費の支払忘れや事務局の年会費請求作業軽減のため自動振替制度を導入し、会員へは引き続き自動振替への切替を随時お願いしている。

以上